

のぞみ
会派希望

空 英雄

16年度市長及び教育長の
執行方針に対して



各派代表質問

民主市民ネット

佐藤 伸弥

農業、漁業、観光等、
基幹産業振興について

○財政の健全化について

問) 公共事業の減少による庁内部署の定員の移動、配置変えが必要と思うが。

答) 体制のあり方について、事業量の動向などを把握しながら、さらに検討を進めていきたい。

○給与体系の見直し及び民間委託について

問) 現在の一本化の体系を見直し仕事の内容による、民間企業の同業種との比較し是正が必要。特に給食調理員、学校用務員等は仕事内容で民間との格差が大きすぎる。また、施設の整備は終了しているので民間委託しては。

答) 給与体系の見直しは、今後における大きな課題である。また、学校給食調理業務の民間委託については、今後の選択肢の一つとして考えている。

○産業振興について

問) 第一次産業による二次、三次加工の振興が必要。また新作物の導入による各種補助事業の効率活用による付加価値の増大を計っては。能取湖の湖口部の橋の建設は、流水の湖内への流入防止と観光振興の観点からも急ぐべきでは。

答) 農協、農業者とも相談し、畑作3品を基幹としながらも、新規導入作物の研究を進める。また、流水導入対策については、漁港整備計画で位置付けられている防止施設整備に早期に着手できるように対応したい。

○観光振興について

問) 当市の観光は背後産業に大きな影響を与える。特に通過形の観光からの脱皮の意味からも、体験型の拠点作りが重要でありレイクサイドパークを持つ能取漁港を、総合的な整備をしては。特に有望な泉脈もあるとのデータもあり、活用する方法によっては、福祉対策にも有効と思うが。

答) 能取湖周辺は、関係者と観光協会が協議してきた経過を踏まえ、市全体の箇所付けも併せて観光振興計画の中で検討する。また、現在、健康増進施設の整備に向けた検討を進めており、建設地の選択にあたっての参考とする。

○患者輸送車の運行路線の再検討

問) この制度が政策としてスタートして、長期となり医療環境も変化をしている、目的に合わせた路線の組み入れを。

答) 基本的な変更は難しいが、微調整はできる。要望を確認したい。

○市職員の挨拶の指導強化について

問) 必要性を認めず当然のことができていない。

答) 庁内に接遇向上検討会を設置し、向上の方策やマニュアル作りを進めている。全庁あげて接遇向上に取り組む。

※その他、老人クラブの会員年齢の定義、構造改革特区構想等について質疑を行った。

○農業振興について

問) 網走市の21世紀の地域農業の確立には「食の安全」「経営の安定化対策」「担い手対策」「産消協働」が重要である。今、国ではWTO、FTA交渉を視野に入れながら、直接所得補償の論議が進められている。当面、馬鈴薯、甜菜などの畑作物を対象にしているが、大切なことは農業・農村が持つ多面的な機能を数値的に評価をし、いかに農家経営の安定に資するかである。制度確立に向けて積極的に対応すべきと考えらるが。

答) 農業の多面的機能を重視し、農業団体、都道府県、市町村が直接払制度創設を要望した結果であり、今後も農業経営安定のため制度の具体化を国に訴えていきたい。

問) 後継者・担い手対策のための実践研修支援事業では、後継者・担い手の育成目標をどう考えているのか。

答) 現在の農家戸数415戸を将来的に維持するには、30歳で経営譲渡を受け、30年間農業を行うとし、年間約14名の新規就農者が必要。最近5ヶ年は約10名の就農状況である。オホーツク網走農協の計画では、毎年5名程度を募り研修カリキュラムの実施を予定しており、農業を早期に実践する後継者の育成を期待している。

問) 丸万川、藻琴川、越歳川、卯原内川等の流域については、河川氾濫による農地の浸水が時々起きている。農地防災事業の採択要件は、受益面積など厳しい条件があるが、国に採択要件緩和を求め、事業推進を図るべき。

答) 事業の採択には、受益地の面積要件が大きな障害である。事業採択の面積要件は300ha以上だが、各流域は、それぞれ100ha前後の受益面積がある。包括した地区採択による面積要件の緩和を国に要請していきたい。

○漁業振興について

問) 市は、地域ブランドの開発を今後どのように進めていく考えか。地域ブランドの市場形成には網走でしか食べられない、手に入らないという市場形成も大事だと考える。市長の見解を。

答) 「網走活き粋き7珍」の利用促進を図り、蓄積された技術や伝統的製法による新製品の開発や改良など、市民に愛される「網走の水産物のブランド化」を引き続き取り組んでいく。市場形成については、網走には大量消費地に匹敵する年間約200万人の観光客が訪れることから、市民や観光客を媒体とした「くちこみ」や、旅館・飲食業・観光業界等と連携し、積極的に取り組みたい。

○観光振興について

問) 新年度の網走市観光振興計画策定には、魅力ある観光地づくり、受入れ体制整備に努めるべき。観光客誘致には、中国と友好の森づくりなどの協同事業を設定し、持続的な相互交流が大切である。市長の見解を。

答) バリエティ豊かな旅行目的を提供できる観光地づくりを進めていくことが重要であり、計画策定を進める。中国については、広州での交流会、上海テレビの取材招聘を実施し、女満別空港へ中国からのチャーター便就航の実現も協議し、幅広い相互の友好交流を含め誘客促進に努力する。

※その他、市長の基本姿勢、財政問題、環境問題、医療福祉問題、教育問題について質疑を行った。